

令和5年7月14日
自己点検・評価委員会

聖徳大学は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命を実現するため、教育研究活動等の状況について、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく評価基準を自ら設定し、継続的に点検及び評価を行い、「教育の質」及び「学生の学びの質」の向上に努めています。

この令和4（2022）年度の取り組み結果について、以下のとおり公表します。

1. 定員充足への取り組み

少子化の波による18歳人口の急減に伴う市場の縮小、特に女性大学の市場規模の縮小に加え、一部大規模大学による入学定員増など、本学は激変する環境の渦中にあります。その中においても本学の半数の学科では、定員充足若しくはほぼその水準に達する学生募集の成果を残しており、とりわけ全国的に激戦となっている分野においても継続して定員充足を達成している学科があることは、特筆に値します。それらの学科の特長としては、魅力ある教育内容による学びの特色化と、教育改善による学生満足度の向上の取り組みを進めていることが挙げられます。

退学者の抑制についてはこれまでも各学部・学科において様々な取り組みを行い、一定の成果を上げており、中途退学者数も一昨年度までのコロナ禍のオンライン授業では減少していました。今後は引き続き退学抑制に向けた適切な個別対応に取り組むなど、より一層退学防止の取り組みを促進することが課題となります。

2. 教育の質向上に向けた取り組み

○各種アンケート、ヒアリング等で得られた学生意見をふまえた教育改善の取り組み

学生への直接のヒアリングや、各種調査等の学生からの意見を汲み上げる仕組みの構築により、学生からの要望や改善意見の集積が進み、大学全体あるいは学科単位、授業単位で取り組むべき改善課題の明確化がなされ、改善サイクルが確立しています。

今後の課題としては、こうした学生要望に沿った学習環境及び教育内容の改善に真摯に取り組む、その成果を学生に対し丁寧にわかりやすくフィードバックすることで、学生満足度を向上させることがあげられます。

○卒業認定・学位授与の方針で掲げる学習成果の可視化・体系化の取り組み

卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果の獲得状況を、いつ、どのような手法で測定されるのか、学習者目線で体系的に可視化を行うため作成に取り組んできた「学習成果の獲得状況を測る手法と時期」を、令和5（2023）年度より全学部・学科で教育課程に掲載しました。このような形で個々の学生への丁寧な学習成果のフィードバックと学生自身による振り返りを全学科で仕組み化することで、学生の学習成果の修得実感や自己肯定感の向上に寄与しています。

○「Business Field Linkage」による新時代の女性リーダーの育成

学部・学科で身につけた高度な専門性を実社会で活かし、経営やリーダーシップの最前線を実践的に学ぶ教育プログラムとして「Business Field Linkage」が本格始動しました。

本プログラムを補強・補完するために開設された研究&コミュニケーションスペースとしての BFL オープンラボも新たに開設し、定期的に業界関係者や専門家を招聘し、ミニセミナーを実施し、受講学生の上場企業への就職につながるなどの成果につながっています。令和5年度からはこの教育プログラムをさらに発展させる形で、20単位を修得すると修了証書が授与される副専攻として五つのカテゴリーも設定され、専門的な学びとともに、先見的な視点とスキルで課題解決に向けてリーダーシップを発揮できる新時代の女性リーダーを目指すこととなりました。

3. 就職実績の向上に向けた取り組み

クラス担任やゼミ担当を中心に学科とキャリア支援を担当する事務局による教職協働の連携が有効に機能しており、早期に学生への積極的な働きかけを行い就職意識の向上を図ることで、令和4(2022)年度には実就職率が3年連続で卒業生数100名以上1,000名未満の全国女子大学で1位(2023年大学通信「UNIVPRESS」調べ)となる97.5%を達成しています。さらに、令和4(2022)年度からは従来の夢実現プロジェクトに加え、全学生を対象にグループディスカッションを中心とした「就活チャレンジ講座」を新規に開始し、就職の質の向上に向けた取り組みを行っています。それによって、上場企業や女性活躍(「くるみん」「えるぼし」認定)企業、ダイバーシティ推進企業への就職者増など一定の成果をあげています。今後の課題は、さらなる就職実績の向上に向け、キャリア支援課と各学科の連携をより一層強化してゆく必要があります。

4. 社会貢献・地域連携の取り組み

令和4(2022)年度には第7回「高校生の体験発表会」を「ステージ発表型(高等学校15校18団体参加)」、「オンライン発表型(9校12団体参加)」で開催し、未来を担う高校生を高等学校と大学が相互に協力して教育し、地域との交流を通じながら成長に繋げる場を提供しました。また、児童学研究所・生涯学習研究所が主催の「アートパーク15～伝説のクリエイティブ魂～」を松戸中央公園で実施したことをはじめ、さまざまな学部・学科の特色や専門性を活かした学生のボランティア活動等を通じた地域・社会への貢献活動を行いました。人間栄養学部からは、「第6回松戸白宇宙かぼちゃみんなのレシピコンテスト」へ多数の学生が応募し、応募総数約50点の中から、同学科の学生11名が入賞しました。さらに、本学とUR都市機構との令和3(2021)年の協定締結後初の取り組みとして、松戸市内にある常盤平団地のポール公園にて、遊びの出前活動を通じて多世代間の交流を図ることを目的に生涯学習研究所、レジャー・レクリエーション学研究室、UR都市機構の共同企画として「あそびの駄菓子屋くまさん」を行い、各回40名以上の参加者を集めました。

まとめと今後の方向性

以上のとおり、本学での改革と改善の取り組みは新たな成果と課題を生み、その課題への対応により新たな成果と課題がうまれる好循環のサイクルが有効に機能しています。本学は本年度令和5(2023)年に学園創立90周年を迎えました。創立100周年に向け、今一度、全教職員が一丸となって学園創立の原点に立ち返り、“学習者目線”の教育の推進の観点から、点検・評価と改善のサイクルを恒常的に回すことで教育の質の向上に取り組めます。

以上